

平成30年度 鳥取県原子力防災訓練 (島根原子力発電所対応)

訓練報告書 (速報版)

鳥取県危機管理局原子力安全対策課
平成30年12月25日(火)

本年度訓練の特徴

- (新)県内に配備された大型ヘリ(CH-47)による住民避難及び医療関係者の緊急輸送
- (新)複合災害を想定した初動対応手順の確認
- 県営避難所開設及び住民の受入
- 大型車両用除染システムの運用検証
- オフサイトセンターへの要員(機能班要員、リエゾン)派遣
- 住民避難開始までの屋内退避の実施
- 放射線防護対策施設への燃料補給
- 多様な避難手段の検証(鉄道、航空機等)
- 西部町村による避難所の開設手順の確認
- 緊急速報(エリア)メール、原子力防災アプリ等、多様な手段を活用した広報の実施
- 住民や外国人等に分かりやすい広報の実施

平成30年度鳥取県原子力防災訓練の様子



初動対応訓練(10/26、30)



大型ヘリによる避難(10/27)



医療関係者の緊急輸送(10/27)



バスによる避難(10/30)



安定ヨウ素剤配布訓練(10/30)



陸上自衛隊車両による避難(10/30)



避難所開設訓練(10/30)



道路情報板(10/30)



原子力防災講座(10/20)

避難退域時検査訓練(中山農業者トレーニングセンター(大山町)) 10/30



避難行動要支援者避難訓練
(障害者支援施設光洋の里)10/27

中型ヘリ及び輸送機を使用した避難 10/30



1 原子力防災訓練の結果

【訓練目的】

- ・原子力緊急時における防災関係機関相互の連携による防災対策の確立及び防災業務関係者の防災技術の習熟を図る。
- ・引き続き鳥取県広域住民避難計画等の深化と実効性向上を図る。
- ・障がい者施設等で策定した避難計画等の検証を行う。
- ・住民や外国人等への分かりやすい広報の実施

【今年度の主な訓練項目】

- ・平成29年度に修正した地域防災計画及び広域住民避難計画の検証
- ・避難退域時検査用資機材の機動的な輸送・展開にかかる検証
- ・避難行動要支援者の避難手順等の検証
- ・実動機関と連携した災害対応手順の確認
- ・住民や外国人等に分かりやすい広報の実施

3日間合計 45機関、約950名(うち住民約180名)

実施日	参加機関・参加者	訓練内容
10/26	11機関・約190名	本部等運営訓練、OFC運営訓練、緊急時モニタリング訓練
10/27	9機関・約170名	住民避難訓練、医療関係者緊急輸送訓練、避難行動要支援者避難訓練
10/30	33機関・約590名	住民避難訓練、避難行動要支援者避難訓練、原子力災害医療活動訓練、広域医療搬送実機研修、避難所開設訓練等

※8月18日(土) 船舶避難訓練を実施

多様な避難手段による避難訓練

住民避難訓練は10/30に実施(船舶のみ8/18)

船舶避難訓練概要

日時:平成30年8月18日(土)7:00~正午
 場所:境港、鳥取港 等
 参加機関等:鳥取県、海上自衛隊、境海上保安部、米子市、境港市 等
 ※訓練参加者は約120名(一般住民15名含む)

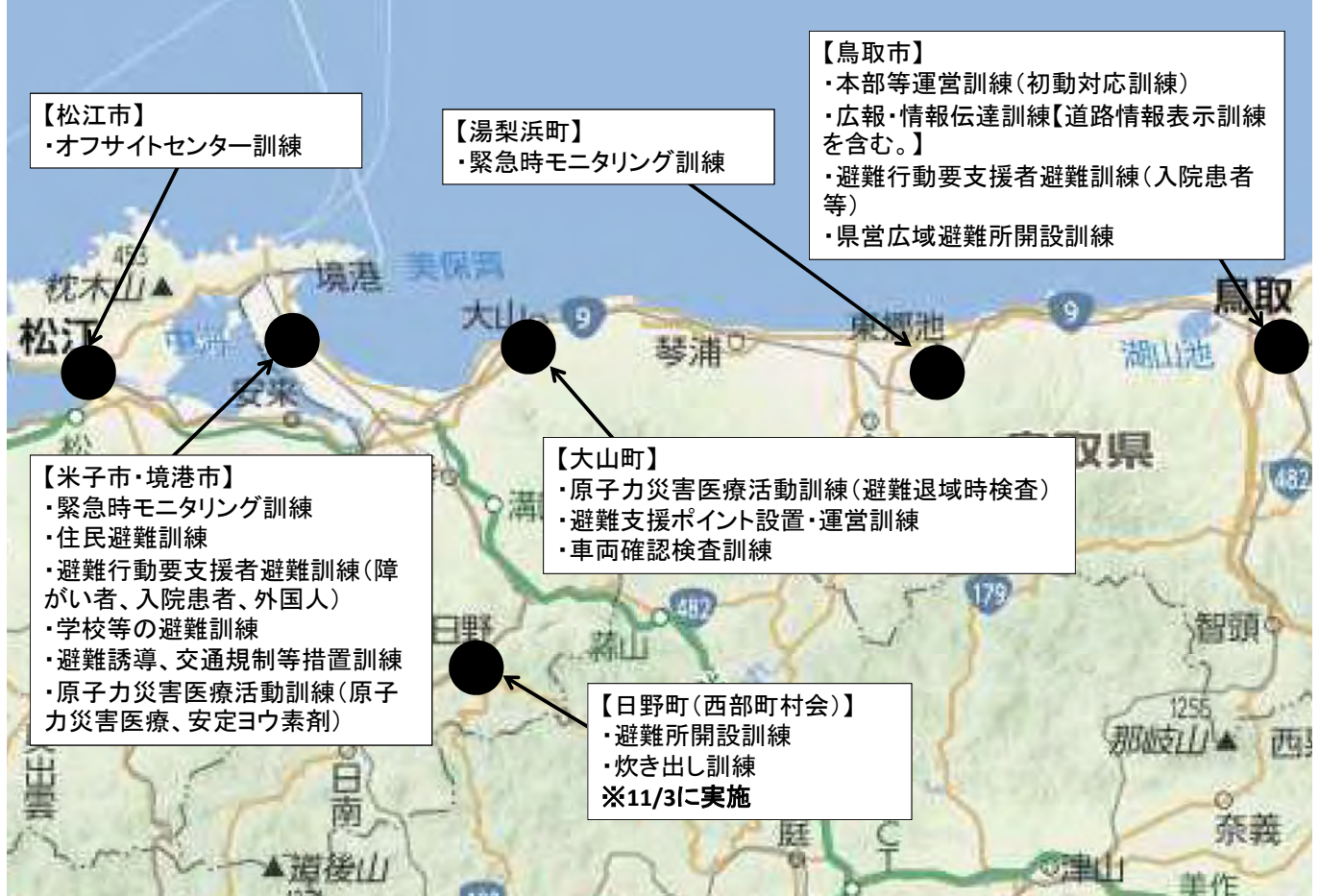
<訓練の流れ>

- 本部等運営、広報・伝達、緊急時モニタリング
 - ・災対本部会議、島根県知事等とのTV会議、広報・情報伝達等
 - ・モニタリング本部の設置、情報伝送等
- ↓
- 住民避難
 - ・多様な避難手段(バス、JR、船舶、航空機)の活用
 - 【JR】補完的な住民輸送(下車駅と検査会場まではバスで輸送)
 - 【船舶(境港→鳥取港)】住民の緊急避難等
 - 【航空機(美保分屯地・米子駐屯地→鳥取空港、避難退域時検査会場等)】
 ※航空機は緊急的に迅速な避難を行う必要のある住民等を想定
- 避難行動要支援者避難
 - ・航空機の活用
 - 【航空機(美保基地→鳥取空港)】重篤患者の搬送
 ※緊急に搬送を要する入院患者等を鳥取空港(ダミーの行き先)として使用
- ↓
- 原子力災害医療活動
 - ・原子力災害医療、避難退域時検査、安定ヨウ素剤配布等 等

弓ヶ浜半島の特性

- ・道路が南北にしかなく避難の際には同方向に避難が集中する。
- ・半島付け根部分に人口が密集しており、人口密集地を通過し避難する
- ・鳥根県から避難住民が合流することから、万が一の場合大渋滞が予想される。

原子力防災訓練実施場所一覧



【参考】自衛隊航空機参加状況



機体名: C-2(輸送機)
 所 属: 航空自衛隊第3輸送航空隊(美保基地)
 参加訓練: 原子力災害医療訓練(10/30)



機体名: CH-47(大型ヘリ)
 所 属: 陸上自衛隊中部方面ヘリコプター隊第3飛行隊
 (美保分屯地)
 参加訓練: 住民避難訓練(10/27)



機体名: UH-1(中型ヘリ)
 所 属: 陸上自衛隊13旅団(防府分屯地)
 参加訓練: 住民避難訓練(10/30)

原子力防災訓練各個別訓練実施日一覧

区分	8/18 (土)	8/30 (木)	10/26 (金)	10/27 (土)	10/30 (火)	備考
本部等運営訓練（初動対応訓練）【緊急時通信連絡訓練を含む。】		○	○			8/30は準備訓練
オフサイトセンター訓練			○			
広報・情報伝達訓練【道路情報表示訓練を含む。】			○		○	
緊急時モニタリング訓練			○			
住民避難訓練（在宅要支援者等避難、要員緊急輸送含む）	○ (船舶)			○	○ (船舶以外)	
避難行動要支援者避難訓練（障がい者、入院患者等）				○	○	
学校等の避難訓練					○	
避難誘導・交通規制等措置訓練					○	
避難支援ポイント設置・運営訓練					○	
原子力災害医療活動訓練（原子力災害医療、避難退域時検査、安定ヨウ素剤）					○	
車両確認検査等訓練					○	
県営広域避難所開設訓練					○	
原子力防災講座等						10/20
西部町村避難所開設訓練						11/3

2 各訓練実施結果 <添付資料1>

- 1 本部等運営訓練（初動対応訓練）【オフサイトセンター訓練含む】
- 2 広報・情報伝達訓練【道路情報表示訓練を含む。】
- 3 緊急時モニタリング訓練
- 4 住民避難訓練（在宅要支援者等避難訓練、船舶避難）
- 5 避難行動要支援者避難訓練（障がい者、入院患者等）
- 6 学校等の避難訓練
- 7 避難誘導、交通規制等措置訓練
- 8 避難支援ポイント設置・運営訓練
- 9 原子力災害医療活動訓練（避難退域時検査、安定ヨウ素剤）
- 10 車両確認検査等訓練
- 11 県営広域避難所開設訓練
- 12 原子力防災講座等
- 13 西部町村避難所開設訓練
- 14 米子市実施訓練
- 15 境港市実施訓練


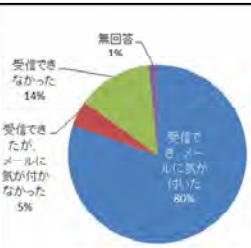
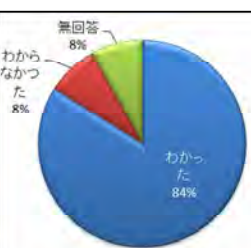
3 避難訓練参加住民アンケート結果

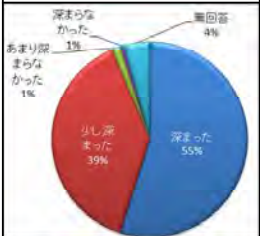
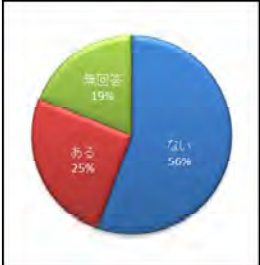
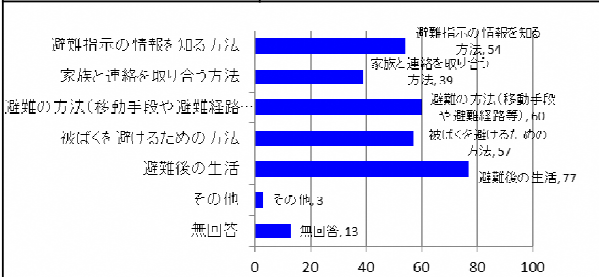
平成30年10月30日（火）に実施した避難訓練へ参加した住民に対してアンケートを実施（回答総数142名）

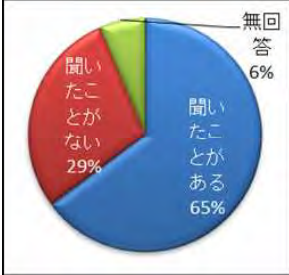
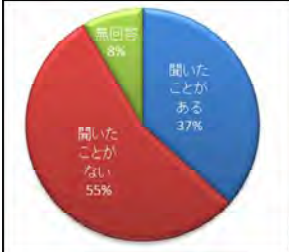

（回答者の男女比は概ね7：3で、60歳代以上が約8割を占めている）

<アンケートとりまとめ結果>

- ・回答した住民の9割超が訓練参加により原子力防災への理解が深まったと回答（昨年度：約9割）
→避難の流れ、特に避難退域時検査や避難所開設訓練等を実際に訓練で体験することにより理解が深まったものと考えられる。今後も引き続き訓練を実施する。
- ・緊急速報メールは8割が受信し、内容を伝達することができた。（昨年度：約8割）
→情報伝達手段としての緊急速報メールの有用性を確認
- ・災害時には自家用車で7割が避難する一方で、段階的避難に関する認知度の向上が課題
（昨年度：約6割が自家用車避難と回答）
→今後も機会を捉えた継続的な周知に努める。

アンケート結果	評価・対策等
<p>Q 1</p> 	<p>これまでに原子力防災訓練に参加した経験はありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の7割超が訓練に初めて参加した住民であり、原子力防災について認識を深めていただく機会となった。 →引き続き広い世代の参加を含めて訓練を継続したい。
<p>Q 2</p> 	<p>緊急速報メールは受信できましたか。又メールに気がつきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8割の住民がメールを受信できたと回答 ・受信できなかった住民については、機種種の未対応、メールの設定オフなどが原因としてあげられた。 →メールの受信設定についてホームページや他手段による周知も検討
<p>Q 3</p> 	<p>緊急速報メールの内容はわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8割超の住民に内容が理解された。 →引き続き効果的な利用によりわかりやすい表現を検討したい。

アンケート結果	評価・対策等																
Q 4	訓練を通じて原子力防災に関する理解が深まりましたか？																
 <p>深まった 55% 少し深まった 39% 変わらなかった 4% あまり深まらなかった 1% 深まらなかった 1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9割超の参加者が訓練を通じて原子力防災に関する理解が深まった、少し深まったと回答 <p>→引き続き訓練を継続していく。</p>																
Q 5	今回の訓練で実施した避難行動の改善点の有無																
 <p>ない 50% ある 25% 無回答 19%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5割超が改善点なし、2割超が改善点ありと回答 ・ 訓練経験のない方など多くの方に訓練に参加して欲しいとの意見が見られた。 																
Q 6	避難について知っておきたいこと、知りたいことは何ですか。																
 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>避難の方法(移動手段や避難経路等)</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>避難後の生活</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>避難指示の情報を知る方法</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>家族と連絡を取り合う方法</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>被ばくを避けるための方法</td> <td>57%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>13%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	割合	避難の方法(移動手段や避難経路等)	61%	避難後の生活	77%	避難指示の情報を知る方法	51%	家族と連絡を取り合う方法	39%	被ばくを避けるための方法	57%	その他	3%	無回答	13%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難後の生活、次いで避難の方法、被ばくを避ける方法及び情報の入手方法の順に知りたいと回答(複数回答の質問) <p>→一連の流れについて様々な機会・手段により継続的に周知する必要がある。</p>
項目	割合																
避難の方法(移動手段や避難経路等)	61%																
避難後の生活	77%																
避難指示の情報を知る方法	51%																
家族と連絡を取り合う方法	39%																
被ばくを避けるための方法	57%																
その他	3%																
無回答	13%																

アンケート結果	評価・対策等
Q 7	段階的避難という言葉聞いたことがありますか。
 <p>聞いたことがある 65% 聞いたことがない 29% 無回答 6%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6割超が段階的避難について認識 <p>→認知度の一層の向上に向けて今後も周知に取り組む。</p>
Q 8	お住まいの地域の段階的避難の区分はご存じですか。
 <p>聞いたことがある 37% 聞いたことがない 55% 無回答 8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半数が避難区分を知らないと回答 <p>→実際の避難区分についても様々な機会を捉えて継続した周知を実施して行く必要がある。</p>
Q 9	原子力災害時の避難手段として何を使用しますか。
 <p>自家用車 68% バス 18% 無回答 6% その他 3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約7割が自家用車避難を選択 <p>→バスやJRでの避難をされる住民も2割超であり、引き続き多様な避難手段の検証を行っていく必要がある。</p>